

株式会社エクストランス

X-MON3

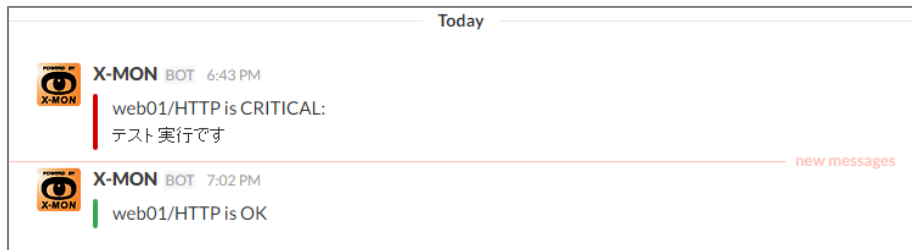
Slack 通知連携リファレンス

## まえがき

本書は X-MON と Slack を連携し、X-MON からの障害発生・復旧時の通知を Slack に送信するためのリファレンスです。

通知は Slack の指定したチャンネルに送信されます。

メーリングリスト等にメールを送信しなくても、Slack へログインするだけで、関係者全員が障害の発生と復旧の通知を受け取ることができます。



Slack は Slack Technologies, Inc. の日本及びその他の国における登録商標または商標です。

※ 本リファレンスは、株式会社エクストランスが作成、公開しているリファレンスです。記載している内容は、Slack Technologies, Inc. より公式な手順としては発表されておらず、同社とは関わりがありません。

本書における解説環境

X-MON ver3.3.0 （一部 3.9.0）

X-MON サポートサイト

<https://x-mon.jp/support/>

2016 年 8 月

改訂履歴	
2016 年 8 月	初版
2019 年 9 月	第 2 版

Copyright © 2016 X-TRANS, Inc. All Rights Reserved.

## 内容

---

まえがき.....	1
1 Slack への通知受信設定 .....	3
1.1 Nagios アドオンの追加.....	3
1.2 Nagios アドオンの設定の確認 .....	5
1.3 X-MON 通知用チャンネルの作成.....	7
2 X-MON から Slack への通知送信設定 .....	8
2.1 Slack 通知エスカレーションコマンドの作成 .....	8
2.2 サービスエスカレーションの登録(ver3.8.0 以前) .....	11
2.3 サービスエスカレーションの登録(ver3.9.0 以降) .....	14
3 Slack 通知のテスト実行 .....	18

## 1 Slack への通知受信設定

X-MON から Slack への通知を受信する設定を Slack の管理画面で行います。

本マニュアルでは Slack の利用登録は完了している前提で、記載しております。

Slack へのユーザ登録がお済みでない場合、ユーザ登録を行い、Slack の管理画面へのログインを行ったのち、以下の手順を行ってください。

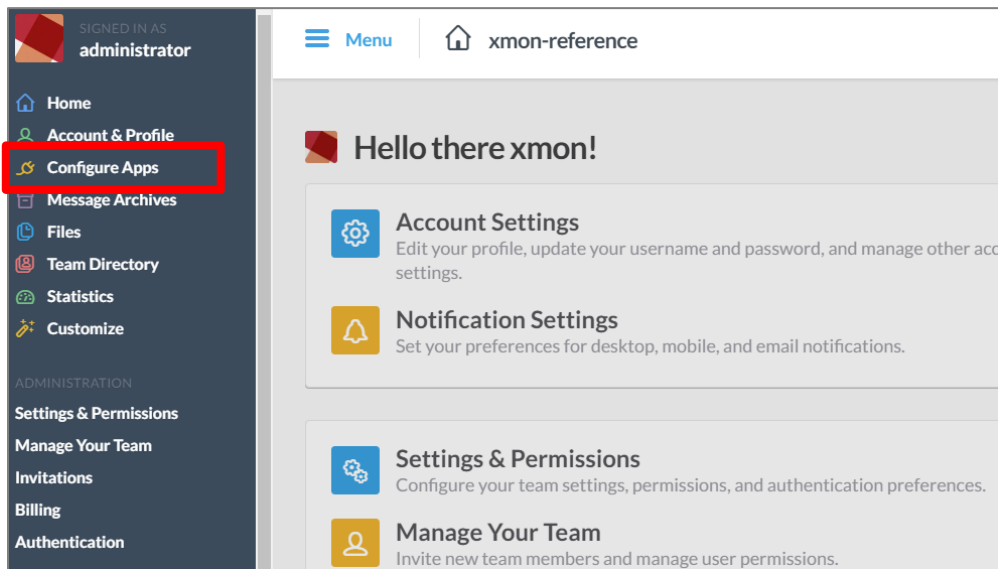
本マニュアルに表示されている手順や、画面キャプチャは 2016 年 07 月現在のものです、Slack 側の変更により意図せず画面や表示が変わることがあることご了承ください。

### 1.1 Nagios アドオンの追加

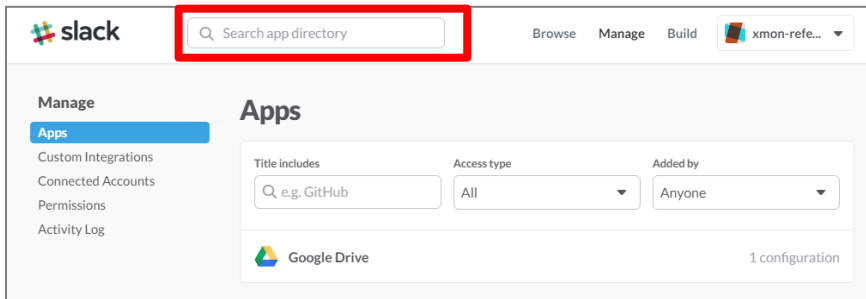
Slack の管理画面より、Nagios のアドオンを追加します。

管理者権限を持つユーザで Slack の管理画面にログインします。

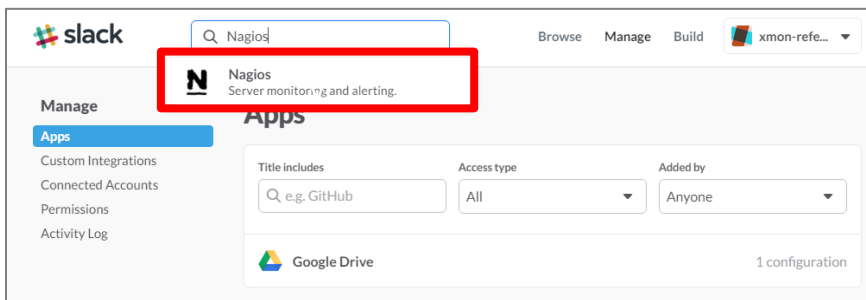
左上の「Menu」ボタンをクリックし、表示されたメニューより「Configure Apps」を選択します。



アプリケーションの管理画面に遷移しますので、  
上部のメニューバーに「Nagios」と入力します。



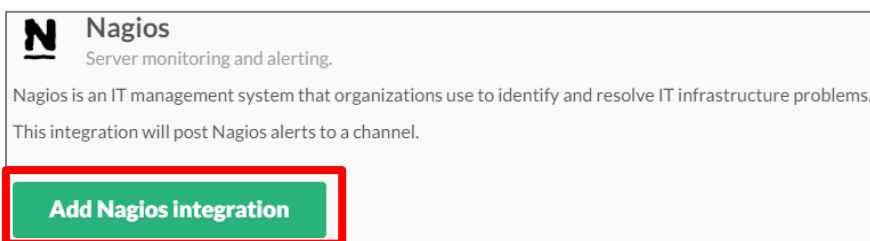
Nagios 連携アドオンが表示されますので、選択します。



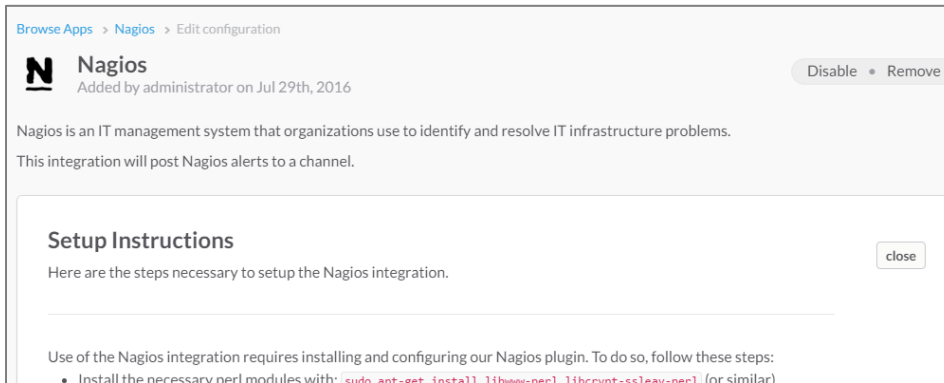
アドオンのページに遷移後、「Install」ボタンをクリックします。



確認画面が表示されますので、「Add Nagios integration」を選択してください。



アドオンの設定変更画面に遷移すればインストールは完了です。

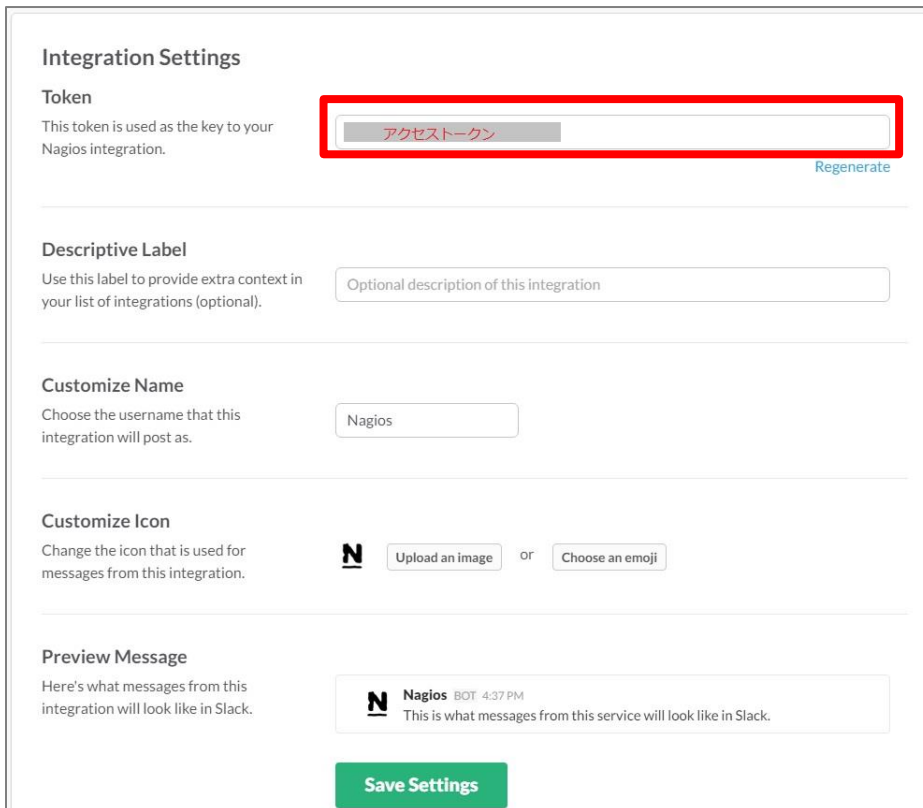


## 1.2 Nagios アドオンの設定の確認

X-MON での連携設定で利用するため、Nagios アドオンの設定を確認します。


先ほど、インストール後に表示された、アドオンの設定変更画面の下部「Integration Setting」項目を確認します。

「Token」項目に文字列が記載されていますが、X-MON の通知設定を行う際に必要になりますので控えておいてください。




また、「Customize Name」、「Customize Icon」項目で、通知時の画面に表示される名称や、アイコンを変更することができます。

**Customize Name**  
Choose the username that this integration will post as.

**Customize Icon**  
Change the icon that is used for messages from this integration.   or

**Preview Message**  
Here's what messages from this integration will look like in Slack.

 **X-MON BOT** 4:58 PM  
This is what messages from this service will look like in Slack.

上記の例では、通知名称を「X-MON」アイコンを X-MON の画像に変更しております。  
設定を変更した場合、「Save Setting」ボタンをクリックすると設定が反映されます。

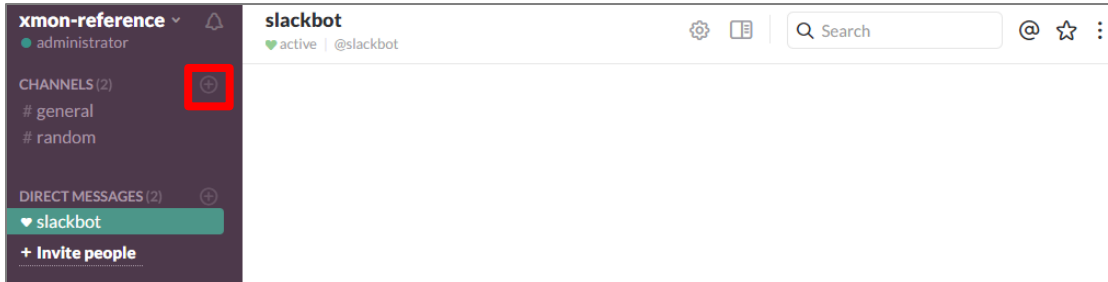
以上で Nagios アドオンの設定確認は完了です。

### 1.3 X-MON 通知用チャンネルの作成

X-MON 通知用のチャンネルを作成します。

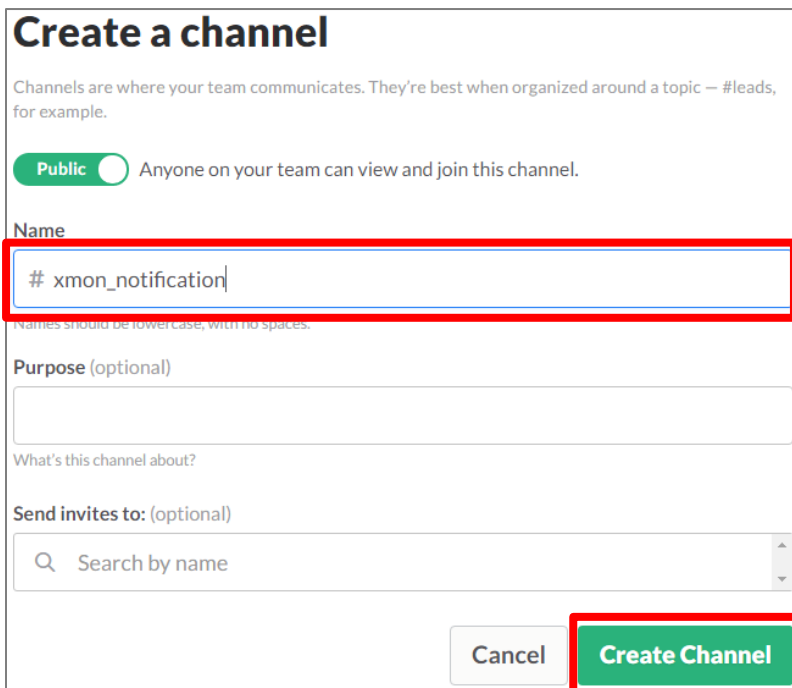
すでに作成されているチャンネルに対し通知を行う場合、以下の作業は必要ありません。

Slack のメッセージ画面から左メニュー内「CHANNELS」の右にある「+」マークをクリックします。



Name 項目にチャンネル名を入力し、「Create Channel」ボタンをクリックします。

下記の例ではチャンネル名を「xmon\_notification」としています。



**Create a channel**

Channels are where your team communicates. They're best when organized around a topic — #leads, for example.

☒ **Public** Anyone on your team can view and join this channel.

**Name**

# xmon\_notification

Names should be lower case, with no spaces.

**Purpose (optional)**

What's this channel about?

**Send invites to: (optional)**

Search by name

Cancel **Create Channel**

チャンネルが作成されました。

X-MON からの通知設定を行う際に必要となりますので、チャンネル名を控えておいてください。



## 2 X-MON から Slack への通知送信設定

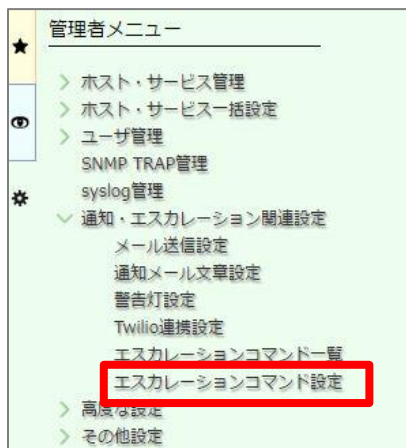
X-MON から Slack への通知を送信する設定を行います。

### 2.1 Slack 通知エスカレーションコマンドの作成

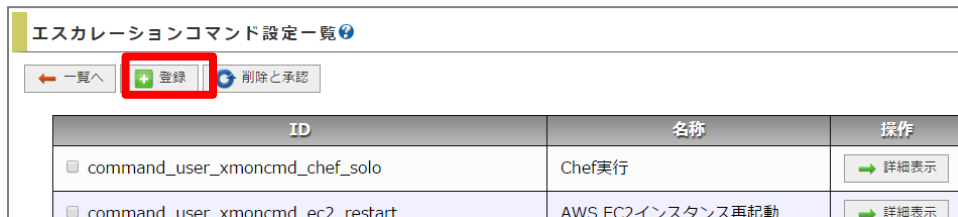
X-MON から Slack への通知は X-MON のエスカレーション機能を用いて行います。

まずは、Slack 通知を行うエスカレーションコマンドの作成を行います。

エスカレーションコマンドの作成は管理者メニューの「通知・エスカレーション関連設定」メニュー内「エスカレーションコマンド設定」より行います。



「エスカレーションコマンド設定一覧」画面に遷移後、「登録」ボタンをクリックします。



エスカレーションコマンドの設定画面が表示されます。

コマンド ID 項目には任意の識別 ID を入力してください。

コマンド名称はエスカレーション登録画面に表示する際の、表示名を入力してください。

実行コマンドは「slack\_request」を選択してください。

引数項目では以下の内容を記載します。

また、引数には Nagios マクロが利用できます。

引数	説明	入力例
--slack_domain -d	Slack にアクセスする際のドメイン名を指定します。	xmon-reference.slack.com
--slack_token -t	Nagios アドオンを登録した際に控えたアクセストークンを指定します。	
--slack_channel -c	Slack への通知を送るチャンネル名を指定します。	xmon_notification
--host -H	通知の際に出力するホスト名を指定します。	\$HOSTALIAS\$ ホスト名称 \$HOSTNAME\$ ホスト ID
--service -S	通知の際に出力するサービス名を指定します。	\$SERVICEDESC\$ サービス ID
--state -s	通知に出力するサービスステータスを指定します。	\$SERVICESTATE\$ サービスステータス
--output -o	通知に出力するサービス情報を指定します。	\$SERVICEOUTPUT\$ サービス情報
--notification -n	エスカレーションコマンドの通知種別を指定します。 \$NOTIFICATIONTYPE\$を指定してください。	\$NOTIFICATIONTYPE\$ 通知種別
--timeout -T	タイムアウト秒数を指定します。 指定しない場合 15 秒が指定されます。	指定秒数 20 秒の場合 --timeout 20 または -T 20
--acknowledged_through -a	指定した場合、認知済みのリクエストを行いません	

## 入力例

### エスカレーションコマンドの設定

キャンセル

※ 引数項目で「\$ARG\*\$」を使用することはできません。

コマンドID(英数字)

command\_user\_slack\_notification

コマンド名称

Slack通知コマンド

実行コマンド

slack\_request

引数

※ 改行コードは空白に置き換えられます。  
-d xmon-reference.slack.com -t アクセストークン -c xmon\_notification -H '\$HOSTALIAS\$'  
-S '\$SERVICEDESC\$' -s '\$SERVICESTATE\$' -o '\$SERVICEOUTPUT\$' -n '\$NOTIFICATIONTYPE\$'

キャンセル 作成 作成と承認

入力後、「作成と承認」ボタンをクリックすると、エスカレーションコマンド設定が追加されます。

以上で、Slack 通知エスカレーションコマンドの作成は完了です。

引き続き、サービスエスカレーションへの登録を行います。

## 2.2 サービスエスカレーションの登録(ver3.8.0 以前)

本章では X-MON3.8.0 以前の管理画面をもとに記載しております。3.9.0 以降のバージョンをお使いのお客様は

[2.3 サービスエスカレーションの登録\(ver3.9.0 以降\)](#)をご確認ください。

設定を追加した Slack 通知エスカレーションコマンドを実行するように、サービスへエスカレーションの登録を行います。

管理者メニューの「ホスト・サービス管理」を選択し、エスカレーションの登録を行いたいサービスが登録されている、ホストの「サービス設定」ボタンをクリックします。

以下の例では、ホスト「web01」のサービス「HTTP」に対し、Slack 通知エスカレーションの登録を行います。

ホスト一覧

ホスト・サービス管理 | ホストグループ管理 | サービスグループ管理 | アイコン管理 | 構成管理 | ドキュメント管理

検索

新規作成 | かんたん監視登録 | ネットワークからホストを検出する | 削除 | 削除と承認

ID	名称	IPアドレス/FQDN	エスカレーション設定数
Linux-TRAP	Linux-TRAP	127.0.0.1	有効: 0, 無効: 0
web01	web01	127.0.0.1	有効: 0, 無効: 0
win2008R2	Windows Server 2008R2	127.0.0.1	有効: 0, 無効: 0
X-MON	X-MON	127.0.0.1	有効: 0, 無効: 0

新規作成 | 削除 | 削除と承認

ホストのサービス一覧が表示されますので、「サービスエスカレーション設定」ボタンをクリックします。

web01 - サービス一覧

検索

戻る | 新規作成 | SNMPサービス一括作成 | snmpwalk実行 | 削除 | 削除と承認

監視パッケージメニュー

-- 選択して下さい -- | 選択した監視パッケージで登録と承認 | 監視パッケージの新規作成

サービスID	エスカレーション設定数	操作
HTTP	有効: 0, 無効: 0	詳細表示   サービスエスカレーション設定

戻る | 削除 | 削除と承認

サービスエスカレーション設定画面が表示されますので、「エスカレーション設定」ボタンをクリックします。

設定画面が表示されますので、左上「追加」ボタンをクリックし、パネルを表示した後、設定項目を入力します。

上記の例では、実行開始回数を「1 回目から実行する」ようにし、実行回数を「1」回に制限しています。

実行内容で「コマンド」チェックボックスを選択し、右のプルダウンより「Slack 通知コマンド」を選択します。

対象ステータスはすべてを選択しています。

パネルの設定項目への入力後、「設定と承認」ボタンをクリックするとエスカレーション設定が登録されます。

サービスエスカレーション設定 / web01 - HTTP

※ コマンドを実行するためには、監視対象サーバ側に設定が必要です。

※ デフォルトエスカレーション設定のユーザ名やパスワードを監視対象の環境に合わせて変更する必要があります。

[ 障害時のエスカレーション | 復旧時のエスカレーション ]

表示順切り替え 実行タイミング順

戻る

エスカレーション設定

障害時のエスカレーション

⌚ 障害発生時に 1 回実行する

> Slack通知コマンド

WARNING CRITICAL UNKNOWN

エスカレーション登録後、X-MON を再起動すると設定が反映されます。

以上で、エスカレーション登録は完了です。

13

## 2.3 サービスエスカレーションの登録(ver3.9.0 以降)

本章では X-MON3.9.0 以降の管理画面をもとに記載しております。3.8.0 以前のバージョンをお使いのお客様は

[2.2 サービスエスカレーションの登録\(ver3.8.0 以前\)](#)をご確認ください。

設定を追加した Slack 通知エスカレーションコマンドを実行するように、サービスへエスカレーションの登録を行います。

管理者メニューの「ホスト・サービス管理」を選択し、エスカレーションの登録を行いたいサービスが登録されている、ホストの「サービス設定」ボタンをクリックします。

以下の例では、ホスト「web01」のサービス「HTTP」に対し、Slack 通知エスカレーションの登録を行います。

**ホスト一覧**

ホスト・サービス管理 | [ホストグループ管理](#) | [サービスグループ管理](#) | [アイコン管理](#) | [構成管理](#) | [ドキュメント管理](#)

検索

新規作成 | かんたん監視登録 | ネットワークからホストを検出する | 削除 | 削除と承認

ID	名称	IPアドレス/FQDN	エスカレーション		監視エージェント状況		
<input type="checkbox"/> SWITCH	? スイッチ		有効 1	無効 1	NRPE -	SNMP -	WMI -
<a href="#">詳細表示</a>   <a href="#">サービス設定</a>   <a href="#">ホストエスカレーション設定</a>							
<input type="checkbox"/> X-MON	X-MON		有効 0	無効 0	NRPE OK	SNMP OK	WMI -
<a href="#">詳細表示</a>   <a href="#">サービス設定</a>   <a href="#">ホストエスカレーション設定</a>							
<input type="checkbox"/> web01	? web01		有効 0	無効 0	NRPE OK	SNMP -	WMI -
<a href="#">詳細表示</a>   <a href="#">サービス設定</a>   <a href="#">ホストエスカレーション設定</a>							

ホストのサービス一覧が表示されますので、「サービスエスカレーション設定」ボタンをクリックします。

**web01 - サービス一覧**

検索

戻る | 新規作成 | SNMPサービス一括作成 | snmpwalk実行 | 削除 | 削除と承認

監視パッケージメニュー

-- 選択して下さい -- | 選択した監視パッケージで登録と承認 | 監視パッケージの新規作成

サービスID	エスカレーション		操作	
<input type="checkbox"/> HTTP	有効 0	無効 0	<a href="#">詳細表示</a>	<a href="#">サービスエスカレーション設定</a>
<input type="checkbox"/> PING	有効 0	無効 0	<a href="#">詳細表示</a>	<a href="#">サービスエスカレーション設定</a>

サービスエスカレーション設定画面が表示されますので、「新規作成」ボタンをクリックします。

Escalation Settings

Host Settings | Service Settings

← 戻る **+ 新規作成** ✖ 削除 ➡ 削除と承認 🔗 エスカレーション対象一括編集

絞り込み検索

サービス検索: web01:HTTP x  
X-MON 検索項目が対象に所属する 検索

ステータス: ☐ WARNING ☐ CRITICAL ☐ UNKNOWN ☐ 復旧 ☐ フラッピング ☐ 認知済み ☐ ダウンタイム 有効 / 無効: 全て ▾

再通知: ☐ 繰り返し ☐ 障害ステータス変更時 ☐ 復旧時 コマンドタイプ: 全て

エスカレーション設定がありません。

設定画面が表示されますので、エスカレーション名称に任意な名称を入力し、新しい条件の追加からエスカレーション条件を入力します。

※エスカレーション対象はデフォルトで遷移元のサービスが選択されているため、操作は不要です。

Service Escalation Settings Creation

🚫 キャンセル

エスカレーション名称  
死活監視異常

設定方法  
☒ 時間指定 ☐ 回数指定

エスカレーション対象  
☐ 全てのサービス  
☒ 対象を選択  
web01:HTTP x  
X-MON

既に障害が発生している対象を選択した場合、エスカレーション設定を承認した時点よりエスカレーションが実行されます。

時間別エスカレーション条件

**新しい条件の追加** 別のエスカレーション設定から条件の取得

条件の追加 -- 選択してください -- 条件の追加

選択済みエスカレーション条件

設定がありません。

詳細設定

通知時間帯: 24時間365日 ▾



表示された画面でエスカレーション条件を入力し、「追加」ボタンを押します。

時間別エスカレーション条件の追加

ステータス：WARNING/CRITICAL/UNKNOWN が 0 分継続  
コマンド：追加  
Slack通知コマンド  
再通知：☐ 繰り返し 120 分毎 ☒ 障害ステータス変更時 ☒ 復旧時

追加

キャンセル

上記の例は、サービスの障害が起こった時や復旧した際に Slack 通知を 1 度実行するものです。  
コマンドは「コマンド実行」より「Slack 通知コマンド」を選択します。

エスカレーション条件を追加した状態です。

サービスエスカレーション設定の作成

キャンセル

エスカレーション名称

Slackサービス通知

設定方法

☒ 時間指定 ☐ 回数指定

エスカレーション対象

☐ 全てのサービス  
☒ 対象を選択  

web01:HTTP x

X-MON

既に障害が発生している対象を選択した場合、エスカレーション設定を承認した時点よりエスカレーションが実行されます。

時間別エスカレーション条件

新しい条件の追加

別のエスカレーション設定から条件の取得

条件の追加

-- 選択してください --

条件の追加

選択済みエスカレーション条件

対象ステータス	通知タイミング			実行内容	有効/無効	操作
	初回	障害継続	ステータス変化			
<div>WARNING</div> <div>CRITICAL</div> <div>UNKNOWN</div> <div>復旧</div>	発生	x	○	Slack通知コマンド	On	<div>設定</div> <div>削除</div>

詳細設定

通知時間帯：24時間365日

キャンセル

作成

作成と承認

16

「作成と承認」ボタンをクリックするとエスカレーション設定が登録されます。

### エスカレーション設定

[ホスト設定](#) | [サービス設定](#)

[戻る](#) [新規作成](#) [削除](#) [削除と承認](#) [エスカレーション対象一括編集](#)

絞り込み検索

サービス検索: X-MON

対象が検索項目に所属する

検索

ステータス: ☐ WARNING ☐ CRITICAL ☐ UNKNOWN ☐ 復旧 ☐ フラッピング ☐ 認知済み ☐ ダウンタイム

有効 / 無効: 全て

再通知: ☐ 繰り返し ☐ 障害ステータス変更時 ☐ 復旧時

コマンドタイプ: 全て

詳細をすべて開く

☐ Slackサービス通知

...

⚙

✕

対象: web01:HTTP

設定方法: 時間指定 / 通知時間帯: 24時間365日 / 初回通知の遅延時間: 0分

**WARNING** **CRITICAL** **UNKNOWN** **復旧** 発生時

Slack通知コマンド On

以上で、エスカレーション登録は完了です。

### 3 Slack 通知のテスト実行

X-MON から Slack への通知が行えるかテスト実行を行います。

監視メニューの「サービス一覧」を選択し、先ほどエスカレーション登録を行ったサービスの「サービス情報画面」へ遷移します。

テスト実行を行うために、サービスのアクティブチェックを一時的に停止します。

サービス詳細タブを選択してください。



画面下部にある以下のメニューからアクティブチェック項目の「無効」を選択します。

アクティブチェック	有効	無効
パッシブチェック	有効	無効
分散監視送信	有効	無効
通知／エスカレーション	有効	無効
イベントハンドラ	有効	無効
フラッピング検出	有効	無効

確認ダイアログが表示されますので、「OK」を選択します。

その後、ページを再読み込みすると、アクティブチェック項目の「無効」の背景が赤くなっています。

アクティブチェック	有効	無効
パッシブチェック	有効	無効
分散監視送信	有効	無効
通知／エスカレーション	有効	無効
イベントハンドラ	有効	無効
フラッピング検出	有効	無効


これで一時的に監視が停止された状態になりました。

引き続き、テスト実行を行うため、ダミーの監視データをサービスに送ります。

サービス情報画面右上の「このサービスのパッシブチェックの結果を送信」ボタンをクリックします。



外部コマンドの発行画面に遷移しますので、チェック結果項目を「CRITICAL」、チェック出力項目にテスト実行と分かるようなメッセージを入力し「発行」ボタンをクリックします。



発行後、しばらくすると対象サービスのステータスが変化します。

サービス情報 ⓘ

**web01(web01)**  
サービスID:HTTP  
IPアドレス/FQDN:127.0.0.1

ホストグループ: 所属なし  
サービスグループ: 所属なし  
最終チェック時刻: 2016年07月31日 18時42分10秒  
次回チェック予定: 2016年07月31日 18時42分35秒

-- その他コマンド --

戻る

障害対応ガイド サービス詳細 ドキュメント リンク 構成情報 イベントログ 通知履歴 外部コマンド履歴

コメント

現在の状態: **異常(CRITICAL)**  
ステータス情報: テスト実行中  
パフォーマンスデータ:  
現在の試行数: **2/3(ソフト状態)**

エスカレーションを登録したサービスの試行回数の設定によっては、一度のパッシブチェックの結果送信では上記のようにソフト状態となります。

エスカレーションの実行はハード状態で行われるため、設定されている試行回数の分パッシブチェックの結果を送信してください。

上記の例では、試行回数 3 回中 2 回異常を検知した状態です。

下記のように、試行回数まで達するとハード状態となります。

障害対応ガイド サービス詳細 ドキュメント リンク 構成情報 イベントログ 通知履歴 外部コマンド履歴

コメント

現在の状態: **異常(CRITICAL)**  
ステータス情報: テスト実行中  
パフォーマンスデータ:  
現在の試行数: **3/3(ハード状態)**

エスカレーションのコマンドが実行され、通知が送られるので、Slack の X-MON 通知用のチャンネルを確認してください。

Today

**X-MON BOT** 6:43 PM

**web01/HTTP is CRITICAL:**  
テスト実行中

上記のように X-MON からの通知が表示されていれば、テスト実行は成功です。

復旧時の確認を行います。

サービス情報画面で、「このサービスのパッシブチェックの結果を送信」ボタンをクリックし、外部コマンド発行画面に遷移後、

チェック結果項目を「OK」

チェック出力項目にテスト実行と分かるようなメッセージを入力し、「発行」ボタンをクリックします。

外部コマンド

赤字の項目は必ず入力してください。入力していない場合エラーとなります。

リクエストしたコマンド: 指定したサービスにパッシブチェックの結果を送信する。

ホストID:

web01

サービスID:

HTTP

チェック結果:

OK

チェック出力:

テスト実行正常です


パフォーマンスデータ:

戻る


発行

指定したサービスにパッシブチェックの結果を送信します。TRAP監視やログ監視などの自動で復旧しないサービスを復旧させる際などに使用します。

Today

 X-MON BOT 6:43 PM

web01/HTTP is CRITICAL:  
テスト 実行です

 X-MON BOT 7:02 PM

web01/HTTP is OK

new messages

上記のように X-MON からの通知が表示されていれば、復旧時のテスト実行も成功です。